阿武隈川右岸 5.3k 及び 6.0k の堤内側（宅地側）

のり面の穴について

1. 概要

平成 22 年 4 月 2 日に阿武隈川右岸 5.3k 及び 6.0k の堤内地のり面に、動物が掘ったものと考えられる穴が 1 ヶ所ずつ確認されたことから、穴を掘ったと考えられる動物の特定および対策について、岩手大学 名誉教授 小野泰正先生の立会や現地確認を行ったもの。



【5.3k の状況】左：動物が掘った穴　中：発見後の対処の状況　右：周辺の環境

項目	実施日	備考
現地発見	平成 22 年 4 月 2 日	河川巡視により動物穴を発見
ヒアリング(現地)	平成 22 年 4 月 9 日	ヒアリング対象者：小野泰正岩手大学名誉教授
現地調査	平成 22 年 4 月 14～15 日	掘削、穴の全形の記録、埋め戻し

2. 考察

1）穴を掘った動物はなにか？

以下の状況から「**キツネ**」が掘った穴であるものと考えられる。

- **穴の大きさより中型の動物**
- **周辺が農耕地、民家、河川敷などの開けた環境**
- **掘り出した土の上の足跡**
- **周辺域で確認した糞**



小野先生現地確認状況





左：足跡

- イヌの足跡より幅が狭く、タヌキの足跡より細長い

右：糞

- 中に植物の種子、動物の小骨が混入

2）何のために穴を掘るのか？

春先はキツネの繁殖シーズンであり、穴の深さもあることから、**出産のための巣穴**を掘った可能性が考えられる。

3）巣穴の形状

- 別紙のとおり

3. 対応策

キツネの巣穴対策としては、下記のような理由により**根本的な対策が困難**である。

- **穴が確認された場所と同様の環境は、堤防沿いに広く分布する**
- **キツネのみを効果的に駆除する方法が無い**

以上から、**繁殖シーズン(3～5 月を想定)**の河川巡視時の確認項目の中に、キツネの巣穴を加えることにより**早期発見**に努める。

【参　考】

キツネ（イヌ科）の生態等概要

分布：国内では、北海道(キタキツネ)、本州、四国、九州、淡路島に分布する。国外ではユーラシアタイリクの大部分と北アメリカに分布する。

形態：頭胴長 60～75cm、尾長 40cm、体重 4～7kg。背面は赤褐色で顎の下から腹部は白色。吻部が細く尖る。

生態：都市近郊から山岳地まで生息。主に森林と畑地が混在する**田園環境を好む**。ノネズミ類、鳥類、大型のコガネムシ類など主に小型動物を捕食。コクワなどの果実も食べる。人家のゴミを採食することもある。春先、**3～4 月に平均 4 頭の仔を巣穴で出産**。夏まで家族群で生活する。

(出典：阿部ほか, 2005. 日本の哺乳類改訂版)



(写真：フリー素材より)